

中核市・越谷の新たな拠点となる『人・環境・歴史・安心』をつなぐ庁舎

人と人をつなぐ 市民協働スペースが3つの庁舎を結びつけ、新たな出会いと活動の場を創ります。

歴史をつなぐ 越谷宿のデザインイメージを庁舎に取り込み、町並みの記憶を継承します。

環境をつなぐ 藤棚や葛西用水、元荒川などの豊かな水と緑と調和する「水郷テラス」を計画します。

安心をつなぐ あらゆる災害時にも越谷市の防災拠点として確実に機能し、市民の安全を守ります。

新本庁舎 **市民協働ゾーン**

越谷宿の記憶をつなぐ **みせの間**

新たな市民の憩いの場 **水郷テラス**

新たな出会いと活動の場 **まちのひろば**

新たな市民の憩いの場 **水郷テラス**

新たな出会いと活動の場 **まちのひろば**

水と緑の軸 元荒川 新平和橋

新たな市民の憩いの場 **水郷テラス**

越谷宿の記憶をつなぐ **みせの間**

葛西用水 平和橋 **親水拠点**

越谷市中央市民会館 (避難所)

新たな出会いと活動の場 **まちのひろば**

災害時に市民の安全を守る **防災拠点**

歴史の軸 越谷旧道 (旧日光街道)

越谷駅

越谷旧道の街並み

新たな拠点づくりのイメージ

発注者との対話を重視し最適な計画を提案

発注者との密な打合せによる課題の解決

- 発注者との密な打合せにより、条件や課題を整理し、共有化します。さらに、基本計画時の経緯や新たなニーズを明らかにし適切な検討により、課題を解決します。

費用対効果の検証による最適な計画を提案

- 発注者ニーズをもとにコストに大きく影響する項目について、機能性、安全性、環境配慮等の多角的な評価軸で費用対効果の検証を行い、全体計画の最適化を図ります。

項目	内容	評価軸
地下の有無	地下の運用を確認し、地下削減案の検討	<ul style="list-style-type: none"> 構造計画との合理性 工事工期 土地利用計画 既存庁舎との整合性
	地下あり案	
	免震ピット地下利用案	
面積設定	効率的なオフィスレイアウト及び全庁共用会議室の活用により執務面積の最大約800㎡削減、ワンフロア削減を提案(1人当たり3.6㎡以上を確保)	<ul style="list-style-type: none"> 機能性 将来の拡張性
環境計画	目標値を設定した環境配慮項目の検討	<ul style="list-style-type: none"> LCCO2・快適性 維持管理・BCP

費用対効果検証項目

市民とともに成長し常に社会のニーズに寄り添うユニバーサルな庁舎

建築、構造、設備の統合によりスーパーパッシブ庁舎を実現

エコウォール (ECO LCC)

外壁を集熱帯として利用し、季節や温度条件に応じて、換気や給気を行い、熱エネルギーを有効活用するシステム

冬季: エコウォール内の暖気を空調に利用

夏季: ナイトバージ (夜間の外気取入れ)

中間期: サポートゾーンの自然換気促進

自然換気 (ECO LCC)

中間期は階段室の煙突効果を利用して、元荒川からの涼風を庁舎へ導く

ワンルーム執務空間 (長寿命 LCC)

部署やレイアウト変更に柔軟に対応天井をなくし、内装の改修等を軽減

PC床版の採用 (長寿命 LCC)

高品質・高強度なPC版を採用これにより、梁のないゆとり空間も実現

免震構造の採用 (長寿命 LCC)

地震時の安全性を確保、揺れを抑え、間仕切改修を軽減

高強度コンクリート (長寿命 LCC)

コンクリート強度30N/mm²を採用し、耐久性を向上

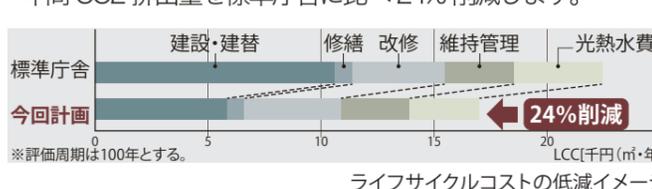
ECO 環境 長寿命 長寿命 LCC ライフサイクルコスト

- 太陽光発電パネル、蓄電池: 発電効率の良い屋上に50kwを設置 (ECO)
- 空冷機器の散水・日射避け: 運転効率の向上 (ECO 長寿命)
- 温度センサー・CO2センサー: 室内環境に応じた省エネ運転 (ECO)
- 高断熱トリプルLow-eガラス: 金属膜を3層とした高断熱性のペアガラス(遮蔽係数0.29)により熱負荷低減 (LCC ECO)
- 日射避け庇: 日射を遮り、清掃メンテナンスにも利用 (ECO 長寿命)
- LED照明 (昼光・調光制御): エネルギー効率と視環境の向上 (ECO)
- 床吹出空調: 居住地域を効率良く空調可能個別制御も検討 (ECO)
- 元荒川からの涼風
- ダブルコイル空調機: 28℃設定でも快適な執務環境を実現 (ECO LCC)
- 緑化環境のつながり: 空調負荷の低減、ヒートアイランド防止 (ECO)
- 地中熱利用: 安定した熱源を利用し冷水をつくる (ECO LCC)
- 雨水利用: 雨水をWCの洗浄水や散水に利用 (ECO LCC)
- クールウォームピット: 免震ピットの空気を空調に利用 (ECO LCC)
- 地中熱ヒートポンプ

ライフサイクルコストを24%低減 (100年)

シンプルで高性能な外装により空調コストを削減

- 外装は遮蔽係数 0.29 という高性能トリプル Low-e ガラスを採用し、熱負荷を大幅に削減します。これにより空調機にかかるコストを削減し、イニシャルコストで約 8,000 (千円) 削減、ランニングコストで年間約 750 (千円) を削減します。
- 高効率・長寿命な機器の採用等により、光熱水費や維持管理費を削減しライフサイクルコストを大幅に低減します。
- 年間 CO2 排出量を標準庁舎に比べ 24% 削減します。



エネルギーの最大活用により、環境負荷を低減

BEMS 導入による効率的なエネルギー管理

- 用途ごとのエネルギー消費データを分析し、エネルギー利用や設備運転のデマンド制御により、最適化を図ります。

エネルギーの見える化・見せる化

- エントランスホールや執務室にエネルギー使用状況、太陽光発電量を表示し、職員や市民の省エネ意識を高めます。

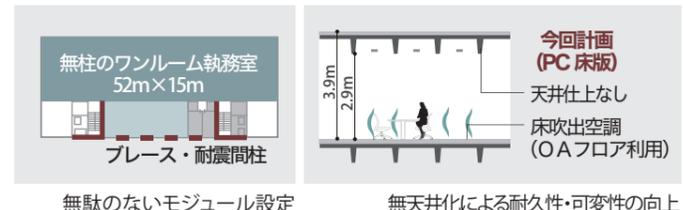
エネルギー利用効率を高めたダブルコイル空調システム

- 外気負荷と室内負荷を独立して処理するシステムにより、除湿に伴う過冷却や再熱を無くし、快適性と省エネルギーを両立します。

長寿命化を支える耐震性・耐久性を確保

PC床版によるフレキシブルなワンルーム執務空間

- 鉄骨造のロングスパン構造により、無柱の約780㎡のワンルーム執務空間を実現します。耐震要素はコア周りに集約することで、部署や組織の変更にも柔軟に対応可能です。
- PC床版を採用し天井仕上をなくします。これにより、階高を抑えながら天井高さを確保し、大地震時の安全性と快適性を高めます。



モニタリングシステムによる安全性の「見える化」

- 地震後の建物の安全度をフロア単位で「見える化」するモニタリングシステムを提案します。
- 熊本地震のように大きな余震が何度も発生する場合でも、変形や傾斜の有無など 5 つのパラメータの解析により、リアルタイムで安全性を確認することができます。

システム解析結果のコメント例

- この建物は安全です。通常通り執務が可能です。
- 階、○階に損傷の可能性が有ります。注意をしてください。
- この建物は危険です。全員緊急避難してください。

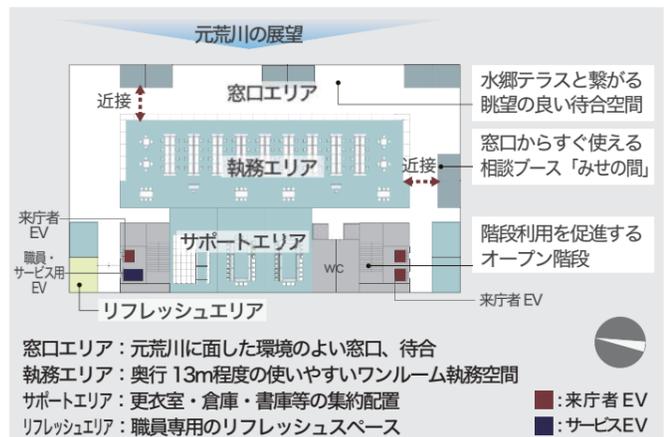
構造モニタリングシステムのイメージ

まちに開き、まちとつながる水郷テラスー親水文化都市を象徴する庁舎

分かりやすさ、動きやすさ、快適性を併せ持つ執務環境

フレキシビリティを重視した「ワンルーム執務空間」

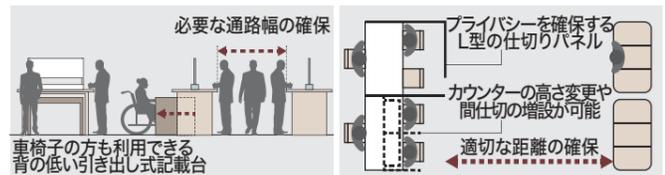
・西側にコアを集約し、柱の制約のない整形のワンルーム執務空間を確保し、様々なレイアウトに対応可能とします。



使いやすいワンルーム執務空間のイメージ

来庁者のプライバシーと快適性を向上するユニバーサル窓口

・子供からお年寄りまで、様々な来庁者を想定し、マイナンバー制度による業務の変化にも対応できる窓口とします。



ユニバーサル窓口イメージ

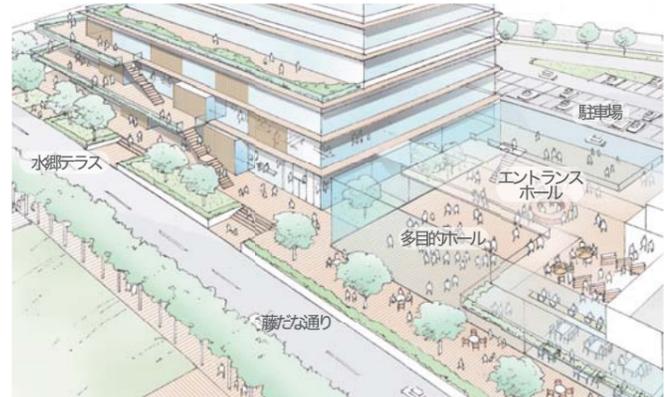
水郷テラスと連携し、ふらっと訪れたい市民協働ゾーン

駐車場から藤だな通りまでを一体化する「まちのひろば」

・駐車場から、エントランスホール、多目的ホールまでを一体化できる計画とします。これにより、災害時からイベントまで外部とも連携した多目的な利用が可能となります。

まちと庁舎、市民協働ゾーンをつなぐ「水郷テラス」

・元荒川や葛西用水ウッドデッキなど、既存の親水環境を生かし、市民が憩えるテラスを市民協働ゾーンから庁舎側にも広げ、まちに向かって賑わい空間をつなげます。
・市民協働ゾーンの1階はテナントや多目的ホールを配置し、2、3階に上がるにつれ目的性の高い部屋を配置することで、市民がふらっと訪れたい庁舎を実現します。



開放性と連続性のある市民協働ゾーン

西面は、西日を遮る彫の深い外壁や越谷宿の瓦屋根をイメージさせる落ち着いたタイルを用いたデザイン

駐車場と連携する市民協働ゾーンは越谷市民まつりを始めとするイベントの拠点として機能



議場を明示し市民の議会への関心も高める展望ロビー

越谷宿をイメージさせる木格子の外観「みせの間」

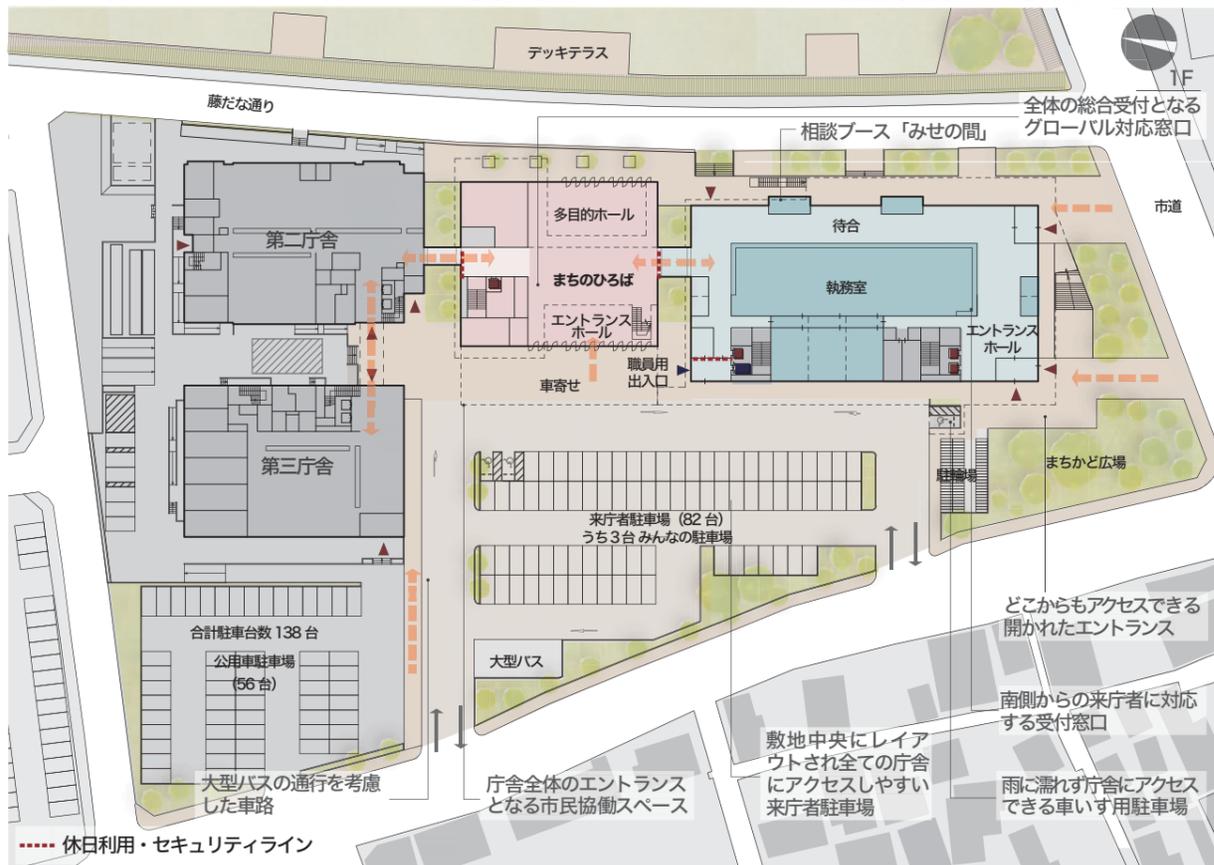
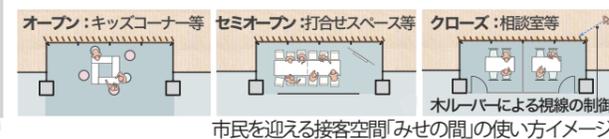
市民をみちびき賑わいをつくる「水郷テラス」

越谷宿屋敷のデザインを庁舎に継承する「みせの間」(多目的相談スペース)

・屋敷の特徴である格子戸と接客空間である「みせ」の領域を来庁者の相談スペースとしてデザインに取り入れます。



・低層部の各課窓口から使いやすい位置に「みせの間」を設置します。各課のニーズに応じて様々な利用が可能です。



開放性と独立性を兼ね備えた「議場と展望ロビー」

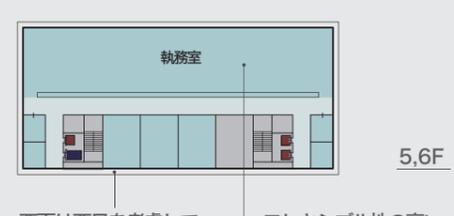
最上階に傍聴席と展望ロビーを配置し、下階の議会部門のセキュリティを確保すると共に、来庁者が気軽に訪れることのできる議場とします。



市民が自由に利用可能な展望デッキ
車椅子席や子供連れなどを考慮した専用ブースを設けた傍聴席
議場内部を見通すことも可能



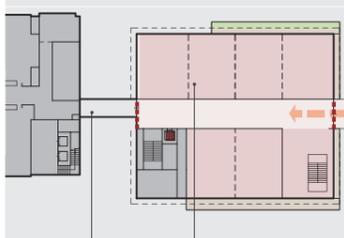
会派の変動による間仕切り
可動スクリーンにより川側の位置の変更がしやすい控室
風景を望める開放的な議場



西面は西日を考慮して壁を主体としたデザイン
フレキシブル性の高い整形の執務空間

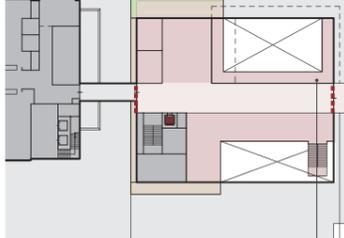


二重のセキュリティを確保する市長室エリア
テラスは避難ルートとしても利用可能
来客時のおもてなしにも利用可能なテラス



既存遺及を考慮した渡り廊下
移動間仕切りにより多目的に活用できる全庁共用会議室

コアを分散して市民協働スペースや既存庁舎との利便性を向上
各課窓口に近い多目的相談ブース



多目的ホールのギャラリーは水辺空間と連続した憩い空間「水郷テラス」を配置可能に

2階に直接アクセスできる屋外階段

休日利用・セキュリティライン